



羽合小学校 学校通信

平成27年5月25日 NO.18

今年も青い鯉のぼりを大空へ

今年も、わたしたちの羽合小学校の掲揚台に青い鯉のぼりが泳ぎ始めました。青い鯉のぼりプロジェクトに賛同して、運動会までの1週間泳ぎ続けます。なぜ、青い鯉のぼりなのか、東松島市の伊藤健人さんの物語を紹介します。

2011年3月11日14時46分1000年に1度と言われる大地震が東北地方を襲った。

内陸部は震度7を記録し、大地は大きく地割れし、太平洋沿岸部にはかつて経験した事の無い大津波で街は何もかも流されてしまい尊い命が何万と失われた。

幸い仙台にいた僕、体調を崩して病院にいた父、学校にいたすぐ下の弟は無事だった…が、この津波で母、祖父、祖母は未だ行方不明。5歳の弟は遺体となって見つかった…。

地震後必死に年老いた祖父母と幼い律を連れて津波から逃げた母。父との電話で話してる最中通話は突然切れた

特徴が似てると連絡があり、遺体安置所に行くとそこには冷たくなった律が…

冷たくて動かないけれどその顔は本当に寝ているみたいだった。夢だよね？これ覚めるんだよね？何度も自分に問いかけた。まだ見つからない母や祖父母を探し、瓦礫をいくつも、いくつも避けても変わらない時間だけが過ぎて行くその風景の中で、泥だらけの「青い鯉のぼり」が出て来た…。

年の離れたかわいい伊藤家のアイドル！やんちゃで、お母さんが大好きで一時も離れない甘えん坊。鯉のぼりは僕等上の兄弟の時より大きな本家からのプレゼント。自分の鯉のぼりでもないのに喜んでたっけ…。前日インターネットでフラダンスの動画を見て戯ける律は、当たり前の日常を幸せと思わせてくれる。そんな笑顔だった。

その時確かに聴こえたんだ。

「健ちゃん！今年もお空に律の鯉のぼり高くあげてね」って…。

僕は家の仕事もそっちのけで鯉のぼりを近くの川で洗い、母や祖父母達への思いも乗せ次々と出て来た四匹の鯉のぼりを家の在ったあたりに空高く揚げた。

「律！見えるか！」

天高く揚げた鯉のぼりが喜んでるかのように風にのって体をくねらせ泳ぎ始めた。

鯉のぼりは天に昇って竜になりやがて伝説となる。

青い鯉のぼりは子鯉で「家族」のシンボル。

青い鯉のぼりを弟の律や同じ東日本大震災で亡くなったこども達の為に、地震や津波の心配の無い大空高くに揚げてください。

わたしたちは、伊藤さんの提案ではじまった「青い鯉のぼりプロジェクト」に賛同し、震災の犠牲となったこどもたちを慰め、復興への誓いを新たにすると共に、わたしたちも家族や地域のつながりを再確認するきっかけにできたらと考えています。ご理解を頂ければと思います。

羽合小 寺谷英則